

第17回福井大学医学部附属病院医療安全管理業務監査委員会

福井大学医学部附属病院医療安全管理監査委員会規程に基づき、監査を実施しましたので、以下のとおり報告します。

日 時：令和7年9月11日（木）15：00～16：30
場 所：福井大学医学部附属病院 B棟東2階医療環境センター会議室
委員長：高村 博之 金沢医科大学病院 医療安全部長
委 員：安川 繁博 福井県医師会副会長
委 員：草桶 秀夫 前福井工業大学環境情報学部 教授
委 員：吉川 奈奈 杉原・きっかわ法律事務所 弁護士

監査項目

1. 第16回医療安全管理業務監査委員会議事録の確認
2. 2024年度オカレンス（インシデント）報告について
3. 通院治療センター院内ラウンド結果について
4. 第18回医療安全管理業務監査委員会議題について
5. その他

監査結果

1. 第16回医療安全管理業務監査委員会議事録について内容の確認を行い、資料P11の記載について、“薬剤関係部署について取り上げることと院内ラウンドの実施”は、“薬剤関係部署の院内ラウンド”と修正する以外については原案どおり承認しました。
2. 2024年度オカレンス（インシデント）報告については、報告件数がベッド数の5倍を超えており、組織の安全文化の成熟度を示す指標に達していると評価できます。
また、職種別報告件数、部署別件数、内容の種類を調査して、適切な分析が行われていることを確認しました。
加えて、各部署でも啓蒙活動、バーコードチェックシステムでの患者確認、6R教育の徹底、スタッフ教育の繰り返し等、医療安全に関する取り組みが積極的に行われており、特に手術室の看護師から、再手術、術中に疑問に感じた事例については、漏れなく医療安全に報告が行われていることは素晴らしいと思います。また、モニターに関するオカレンスについては、力を入れて対応されているということですので、今後も継続していただくようお願いします。
3. 通院治療センターで実施されている外来化学療法について、現場に救急カートの配置、アナフィラキシーショックやRapid Response System（ラピッド・レスポンス・システム）のマニュアルが整備されており、irAE（免疫関連有害事象）や末梢神経障害に対する取り組みも行われています。また、薬剤師によるチェックも行われています。これらを踏まえて、安全管理体制がしっかりと構築されていると評価できます。

4. 次回の議題について、A I ツールの活用、医療安全との関わりについての意見が出されました。しかし、あまり治療に導入するという事例がないとのことで別の内容に変更になる可能性があることを確認しました。
5. 福井大学医学部附属病院は、北陸地域初の「高度被ばく医療支援センター」に指定されており、地域の災害拠点病院等では対応できない、高度専門的な支援を行い、被ばく医療に対応できる人材育成を行う施設であることを確認しました。

総括

医療安全管理業務の状況について、今回は、2024年度オカレンス報告（インシデント報告）、通院治療センターでの安全管理体制を中心に監査しましたが、特定機能病院にふさわしい安全管理がなされていると判断いたします。

更なる改善に向けて計画的に取り組まれていることも確認できました。

今後も特定機能病院として、高度で安全安心の医療の提供いただき、地域住民の健康維持にご尽力願います。

令和7年10月8日

福井大学医学部附属病院医療安全管理業務監査委員会

委員長：高村 博之

委 員：安川 繁博

委 員：草桶 秀夫

委 員：吉川 奈奈